

ジャパンナレッジ

基本検索 | 詳細(個別)検索 | 本棚

見出し

図書館

検索

フレーズ検索

検索窓に調べたいキーワードを入力して、検索をクリック

ヒットしたものができました

395件

スニペット

関連度順

20件

- ずしょ-かん【ツショクワン】【図書館】 日本国語大辞典
〔名〕〔「ず」は「図」の呉音〕「図書館(としょかん)」の明治時代の読み方。*改正増補和英語林集成(1886)「Zushokwan ツショクワン 図書館」*春通...
- 図書館 画像 日本大百科全書
図書館は、図書その他の資料を収集・保存し、一般あるいは特定の利用者のため、閲覧、貸出し、参考調査(レファレンス)などのサービスを提供する機関である。この語は英語...
- (省略)
18. 図書館
人間の知的生産物である記録された知識や情報を収集、組織、保存し、人々の要求に応じて提供することを目的とする社会的機関。図書館は、通時的に見るならば、記録資料の保...
19. 図書館 世界文学大事典
〔ギリシャ・ローマの図書館〕 ギリシャ世界で最も有名な図書館は、プトレマイオス1世がアレクサンドリアのムセイオンに設けた図書館で70万冊もの蔵書を誇ったが、前47年...
20. 図書館 ブロクレッシブ和英
⇒図書館

気になるものをクリック

デジタル版 集英社世界文学大事典

基本検索 | 詳細(個別)検索 | 本棚

図書館

古代ギリシア・ローマ

本文ができました

〔ギリシャ・ローマの図書館〕

ギリシャ世界で最も有名な図書館は、プトレマイオス1世がアレクサンドリアのムセイオンに設けた図書館で70万冊もの蔵書を誇ったが、前47年ポンペイウスを追ってアレクサンドリアに入ったカエサルとプトレマイオス軍の間で戦いが起き、図書館の大半が焼失した。次いで有名なのはエウメネス2世によって建てられたペルガモン図書館である。歴代のアッタロス王朝によって保護、拡充され、20万冊の蔵書を数えるようになったが、アントニウスによってクレオパトラに寄贈されてしまう。カエサルはローマで最初の公共図書館の構想を考えていたが、これは実現せず、彼の死後部下のアシニウス・ポルリオがカエサルの遺志を継いで公共図書館を開館した。この図書館ではギリシャとラテンの著書は区分され、書棚には著者の胸像が飾られていたという。アウグストゥス帝はマルスの野とバラティウム丘に図書館を建設した。ギリシャとラテンの図書は別々に配置し、書庫とは別に閲覧室を設けたことなど、彼の図書館は以後の図書館の模範となり、ティベリウス帝、ウェスパシアヌス帝、トラヤヌス帝はローマに、ギリシャ文化を特に愛好したハドリアヌス帝はアテナイに新しい図書館を建設した。キリスト教関係の図書のみならず、異教の著作の収集・筆写がなされ、これが正しく保存されていった。

印刷もできます

(省略)

現在のコンテンツ | すべてのコンテンツ

Knowledge Searcher | 引用元挿入機能

前項目 | 次項目 | 印刷 | 凡例

前後項目

- 独立劇場
- 「独立評論」
- 「徒刑と流刑」
- 縦じ本の文学 【とじいどのぶんがく】
- 土壌主義
- 図書館
- 「吟誦」 【とつかん】
- 「トーデイエー」
- 「ドナウの白鳥」
- ドナトゥス派

印刷

合計: 1 枚の用紙

プリンター

KONICA MINOLTA bizhub227

部数

1

レイアウト

縦

横

ページ

すべて

奇数ページのみ

偶数ページのみ

例: 1-5, 8, 11-13

カラー

カラー

両面印刷

両面印刷

その他の設定

印刷

キャンセル

白黒のみです

1枚10円です

2022/10/21 14:14

図書館 | 世界文学大事典

図書館

古代ギリシア・ローマ

〔ギリシャ・ローマの図書館〕

ギリシャ世界で最も有名な図書館は、プトレマイオス1世がアレクサンドリアのムセイオンに設けた図書館で70万冊もの蔵書を誇ったが、前47年ポンペイウスを追ってアレクサンドリアに入ったカエサルとプトレマイオス軍の間で戦いが起き、図書館の大半が焼失した。次いで有名なのはエウメネス2世によって建てられたペルガモン図書館である。歴代のアッタロス王朝によって保護、拡充され、20万冊の蔵書を数えるようになったが、アントニウスによってクレオパトラに寄贈されてしまう。カエサルはローマで最初の公共図書館の構想を考えていたが、これは実現せず、彼の死後部下のアシニウス・ポルリオがカエサルの遺志を継いで公共図書館を開館した。この図書館ではギリシャとラテンの著書は区分され、書棚には著者の胸像が飾られていたという。アウグストゥス帝はマルスの野とバラティウム丘に図書館を建設した。ギリシャとラテンの図書は別々に配置し、書庫とは別に閲覧室を設けたことなど、彼の図書館は以後の図書館の模範となり、ティベリウス帝、ウェスパシアヌス帝、トラヤヌス帝はローマに、ギリシャ文化を特に愛好したハドリアヌス帝はアテナイに新しい図書館を建設した。キリスト教関係の図書のみならず、異教の著作の収集・筆写がなされ、これが正しく保存されていった。

〔中世以降の図書館〕

ローマ帝国の滅亡の後、中世前期は書物生産自体が低迷した時期であって、わずかな部分では教会内での礼拝用の聖書や典礼書であり、古代のような図書館は発展しなかった。それらは書庫に保管された。現存するローマ文学のテキストの大部分は中世に保存されたものである。

12世紀になって司教座敷の学校が栄え、やがてそれが大学の集合体である大学分野の書物を集めた図書館を設け、学生のために公開した。多くは数十冊の規模の蔵書を持ち、参考書庫と書庫とを区分していた。パリを誇る学校がその第一の公開の場として考えられたからである。

一方、この時期からルネサンスにかけて王侯貴族の個人蔵書が出現する。それらは豊かな構成を有するが、その反面で保存という概念とは相いれない。多くは一代限りでフランス王家の蔵書、代々のイタリア人文主義者に継承されたボッカッチョの蔵書、ギリシャ語写本のコレクションなど、すでに蔵書の伝承の動きが見え、折々の印刷各館で図書館設立の試みが行なわれる。

これらは、ルネサンス期の文芸復興の理想に影響された王侯の群衆(パトロン)に王侯のエスコリアル図書館、ローマ教皇のワテカン図書館など、いずれもルネサンス(ルネ)した。

この傾向は次の17、18世紀になってからも受け継がれ、自身が収集家でもあったミラノのボッロミニ二世侯爵のアンブロジーノ図書館、パリのマザラン侯爵の(オネットム) (紳士)の理想に即して百科全書の書物を網羅し、一般にも公開された。刊行される書物のすべてを国家的規模で収集する高貴の趣味で近代的な公共図書館はフランスで1537年に定められた制度であるが、フランスの主要図書館は出版革命に革命期には修道院の貴重な古写本を接収して(リ)国立図書館に発展した。



使用後はログアウトしましょう

ログアウト

基本検索 | 詳細(個別)検索 | 本棚

現在のコンテンツ | すべてのコンテンツ